

| | | | |
|----------------|---|--------------|----------|
| ナンバリング | B①10 | 科目名 | 特別支援保育 I |
| 担当形態 | 単独 | 担当教員 | 相磯 友子 |
| ディプロマポリシーとの関連性 | ①, ②, ③ | | |
| テキスト | 適宜資料を配布します。 | | |
| 開講時期 | 後期 | 単位数・ 授業形態 | 1 単位・講義 |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・障害観を理解し、「障害の社会モデル」について説明できる。 ・障害についての基礎知識を学び、具体的な支援方法を考えることができる。 ・身近な存在として、障害のある子ども(人)の特性だけでなく「内面」に目を向け、もっと関わってみたい、もっと知りたいと興味・関心をもつ。 | | |
| 授業の概要 | <p>この授業では、まず障害をどのように見るかという「障害観」を学びます。次に、様々な障害のある子ども(人)の内面世界を、映像や疑似体験を通して丁寧に理解していきます。「障害」とは何なのか、また障害のある子ども(人)と関わる上で保育者としてどのようなことを大切にしたいのかを自分なりに考えながら、柔軟な視点を持って参加してください。</p> | | |
| 授業計画 | <p>第 1 回 オリエンテーション、障害観 第 2 回 支援の必要な子どもはどこにいるか 第 3 回 肢体不自由の子ども理解と支援 第 4 回 聴覚障害の子ども理解と支援 第 5 回 視覚障害／盲ろうの子ども理解と支援 第 6 回 知的障害の子ども理解と支援 第 7 回 自閉症の子ども理解と支援 第 8 回 発達障害の子ども理解と支援 第 9 回 読み書きに困難のある子ども理解と支援 第 10 回 吃音の子ども理解と支援 第 11 回 重症心身障害・医療的ケアの必要な子ども理解と支援 第 12 回 外国につながる子ども理解と支援 第 13 回 支援の必要な子どもの保護者支援 第 14 回 保育における合理的配慮 第 15 回 インクルーシブ保育とは</p> | | |

| | | | | | |
|---------------|--|--|----------|----|----------------|
| 準備学習と必要時間 | 毎週 60 分以上は、授業で紹介する資料や本、絵本を読んだり、テレビや動画の視聴を通して事例と結びつけて考えてください。 | | | | |
| 評価方法 | <ul style="list-style-type: none"> ・授業ごとの小テスト - 70% ・授業での議論・話し合い活動への貢献 - 30% | | | | |
| 参考文献 | 授業で適宜示します。 | | | | |
| 特記事項 | <ul style="list-style-type: none"> ・講義中心ですが議論や話し合い活動を行うこともあるため、授業への積極的な参加を期待します。 ・単位を修得できない場合、特別支援保育Ⅱは履修できません。 | | | | |
| 課題へのフィードバック方法 | 小テストの解答は適宜コメントを付け、次の授業の冒頭で返却し解説します。 | | | | |
| 卒業・免許状・資格との関連 | 卒業 | | 幼稚園教諭免許状 | 必修 | 教育の基礎的理解に関する科目 |
| | その他 | | 保育士資格 | 必修 | 保育の内容・方法に関する |
| 教員の実務経験 | | | | | |